2026 年 11 月 5 日　全 9 頁

消費データブック（2026/11/5 号）

個社データ・業界統計・JCB 消費 NOW から消費動向を先取り

経済調査部　エコノミスト　龐 鈞文

[要約]

- 2026 年 9 月の消費は総じてみれば 8 月から減少した。財については、アパレル、コンビニと家電大型専門店（大和総研による季節調整値）の販売額が前月から減少した。一方、百貨店、スーパーの売上と新車販売台数（同）は増加した。サービスについては、新幹線と旅客機の輸送量の前年比伸び率は総じて軟調だった。他方で外食産業売上高の前年比伸び率が前月から拡大し、宿泊者数も前月から増加した。

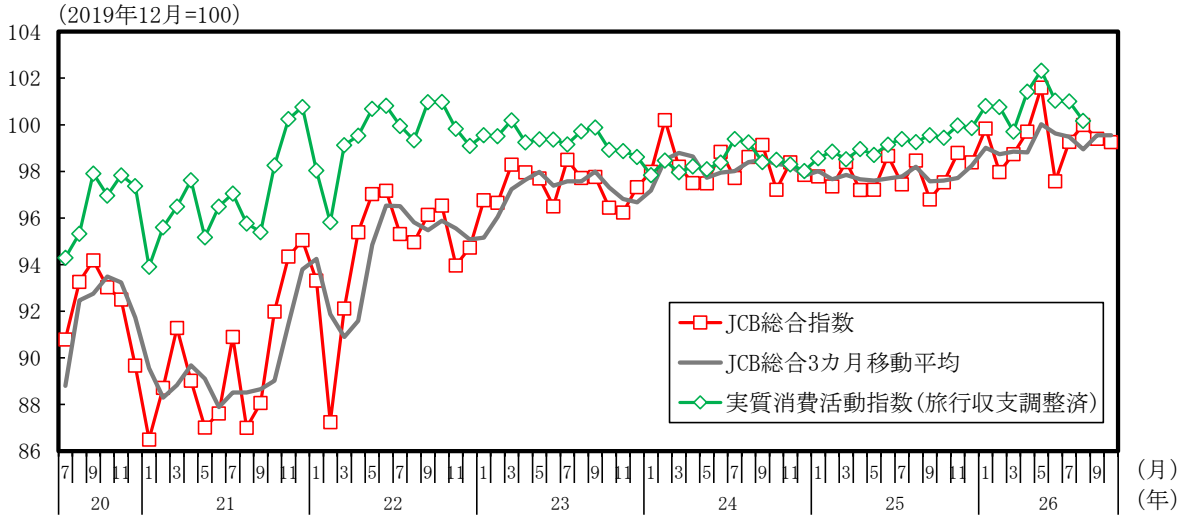
- 10 月の消費は 9 月から減少したとみている。財消費では、10 月前半の実績をもとに試算した家電の JCB 消費額（大和総研による季節調整値）、コンビニの JCB 消費額（同）、新車販売台数（同）とアパレルの売上高は減少した。一方、百貨店の売上高は堅調に推移した。サービス消費では、宿泊の JCB 消費額（同）は前月から減少した一方、外食の JCB 消費額（同）は増加した。

株式会社大和総研 丸の内オフィス　〒100-6756 東京都千代田区丸の内一丁目 9 番 1 号 グラントウキョウ ノースタワー
このレポートは投資勧誘を意図して提供するものではありません。このレポートの掲載情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。㈱大和総研と大和証券㈱は、㈱大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。内容に関する一切の権利は㈱大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等はご遠慮ください。

＜消費全体の動き＞

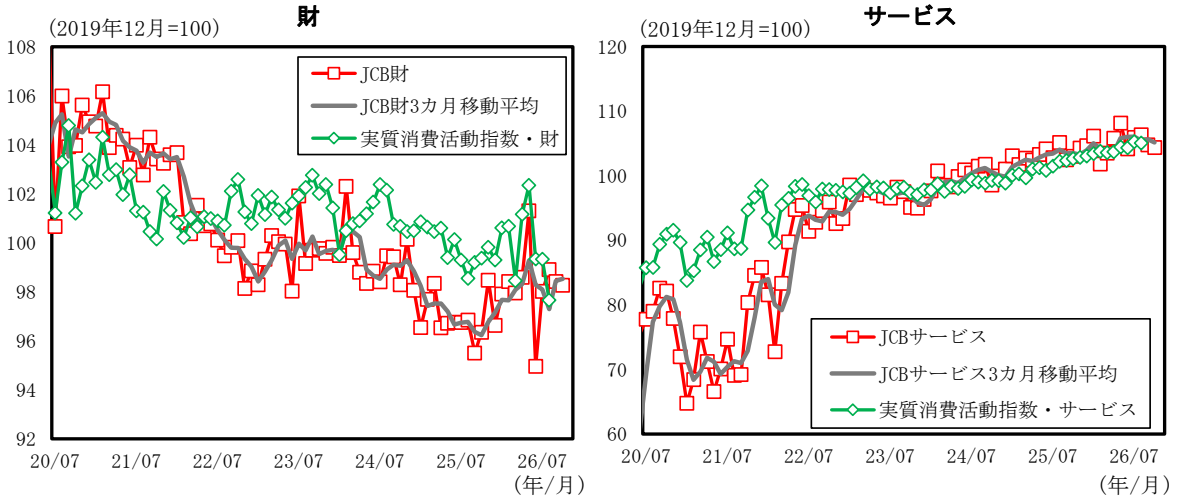
◆【JCB 総合指数】26 年 10 月の JCB 総合指数[1]（月前半の実績に基づいた大和総研による試算の季節調整値、JCB データは以下同）によると、実質消費額は前月比▲0.1%だった。内訳を見ると、財、サービスともに 2 カ月連続で減少した。

図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



（注）JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。燃料小売業、電気・ガス・熱供給・水道業および通信業を除く。対応する CPI で実質化。直近値は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。
（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



（注 1）JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。燃料小売業、電気・ガス・熱供給・水道業および通信業を除く。対応する CPI で実質化。直近値は月前半のデータをもとに試算（物価上昇分を調整）。
（注 2）財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。
（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

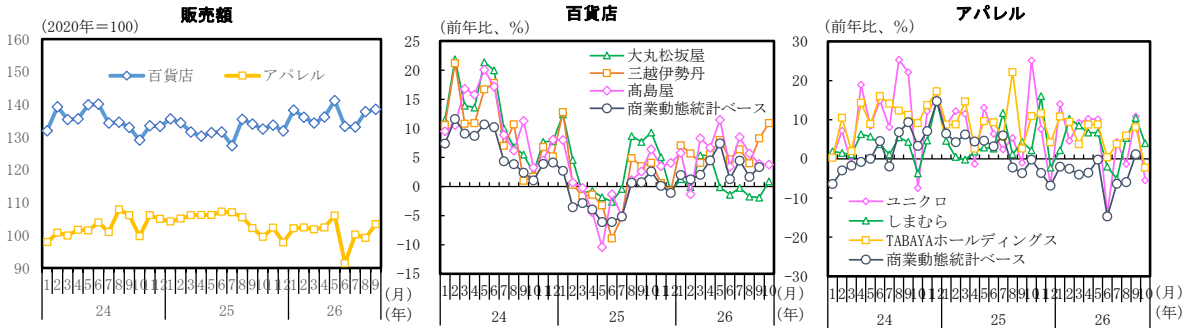
[1] JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、株式会社ナウキャストが作成・公表している消費指数。

＜小売関係＞

◆【百貨店】　26 年 9 月の百貨店商品販売額（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）は前月比＋0.5%と 2 カ月連続で増加した。内訳を見ると、衣料品（同＋2.0%）が増加した一方、その他（同▲0.9%）と飲食料品（同▲0.3%）が減少した。
26 年 10 月の大手百貨店の既存店売上高は、三越伊勢丹が前年比＋10.9%と前月から伸び率が拡大した。高付加価値の商品の売上が好調のようだ。高島屋は同＋3.8%と前月から伸び率がほぼ横ばいだった。秋物衣料・雑貨の販売が堅調のようだ。また、大丸松坂屋は同＋0.9%と 6 カ月ぶりにプラスに転じたものの、店舗の売場縮小や前年の万博会場売上の反動減などの影響が引き続き表れ、伸び率が小幅にとどまった。

◆【アパレル】　26 年 9 月のアパレル販売額（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）は前月比＋4.2%と 2 カ月ぶりに増加した。
26 年 10 月のアパレル大手の既存店売上高を見ると、しまむらは前年比＋4.0%と前月から伸び率が縮小し、TABAYA ホールディングス（旧ユナイテッドアローズ）は同▲2.3%、ユニクロは同▲5.5%とマイナスに転じた。高気温などにより、冬物商品などの売上が伸び悩んだ。

図表 3：百貨店・アパレルの販売額



（注 1）販売額は経済産業省による季節調整値。アパレルは、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。サンプル替えの影響を除いている。
（注 2）百貨店は既存店ベース。三越伊勢丹の 25 年 8 月と 26 年 1 月は、前年とのイベント時期のずれによる影響が調整されている。
（注 3）アパレルは既存店ベース（含むネット通販）。しまむらの各月の数値は前月 21 日から当月 20 日の集計値。26 年 9 月までの TABAYA ホールディングスは旧ユナイテッドアローズの実績。
（出所）経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

◆【スーパーマーケット】

26 年 9 月の販売額は前月比＋1.0%（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）と 3 カ月連続で増加した。飲食料品（同＋0.7%）、その他（同＋2.0%）と衣料品（同＋5.8%）はいずれも増加した。

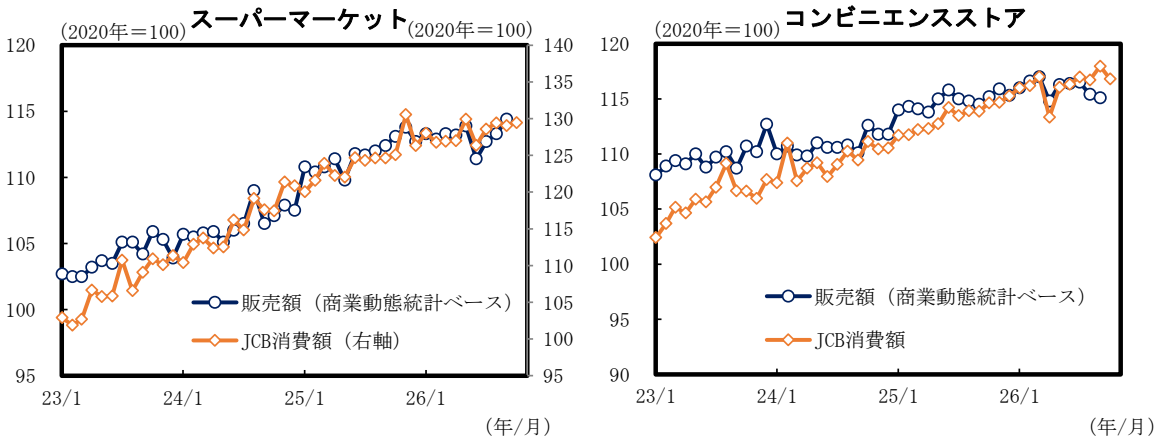
26 年 10 月の JCB 消費額（スーパーマーケット）は前月比＋0.3%と、2 カ月ぶりに増加した。

◆【コンビニエンスストア】

26 年 9 月の販売額は前月比▲0.3%（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）と 2 カ月連続で減少した。ファーストフード及び日配食品（同▲2.3%）と加工食品（同▲1.9%）が減少し、全体を押し下げたほか、サービス売上高（同▲9.1%）も減少した。一方、非食品（同＋2.3%）は増加した。

26 年 10 月の JCB 消費額（コンビニエンスストア）は前月比▲1.0%と、2 カ月ぶりに減少した。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高



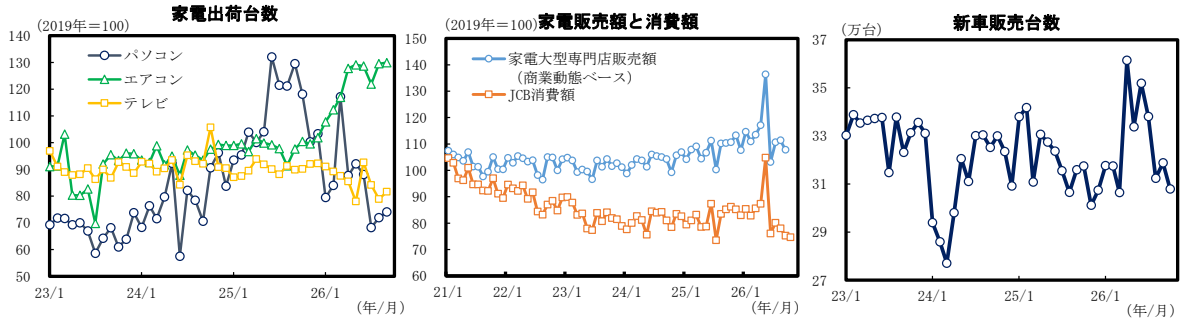
（注）商業動態統計ベースの販売額は経済産業省による季節調整値。JCB 消費額は大和総研による季節調整値で、月前半のデータをもとに試算。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。

（出所）経済産業省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

◆【 家電 】26 年 9 月の家電大型専門店の販売額（商業動態統計ベース、大和総研による季節調整値）は、前月比▲3.2%と 3 カ月ぶりに減少した。一方、主要品目の出荷台数（大和総研による季節調整値）で見ると、テレビ（同＋3.5%）、パソコン（同＋3.0%）とエアコン（同＋0.3%）はいずれも増加した。
26 年 10 月の JCB 消費額（機械器具小売業）は前月比▲1.5%と、3 カ月連続で減少した。

◆【自動車】26 年 9 月の新車販売台数（大和総研による季節調整値）は、前月比＋2.0%と 3 カ月ぶりに増加した。内訳を見ると、普通乗用車と軽四輪乗用車は増加した一方、小型乗用車は減少した。
26 年 10 月は前月比▲3.4%と 2 カ月ぶりに減少した。内訳を見ると、軽四輪乗用車を中心に、普通乗用車と小型乗用車も減少した。

図表 5：家電出荷台数と販売額、新車販売台数



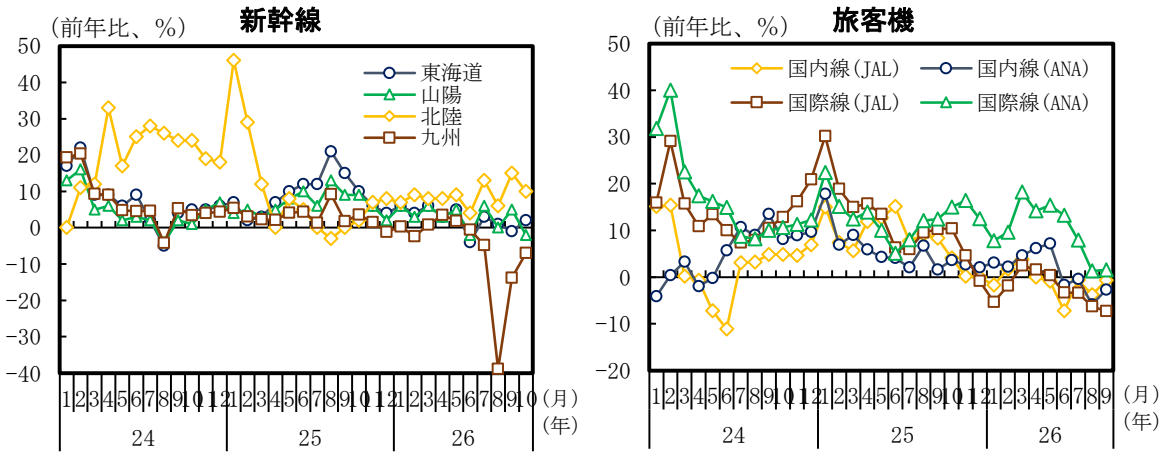
（注）大和総研による季節調整値。JCB 消費額は JCB「機械器具小売業」。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。直近値は月前半のデータをもとに伸び率を試算。
（出所）電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

＜サービス関係＞

◆【新幹線】26 年 9 月の輸送量は、山陽新幹線が前年比＋5%、北陸新幹線が同＋15%と前月から伸び率が拡大した。九州新幹線は同▲14%とマイナス幅が縮小した。一方、東海道新幹線が同▲1%と伸び率がマイナスに転じた。
26 年 10 月は、東海道新幹線が前年比＋2%と前月から伸び率がプラスに転じた。九州新幹線は同▲7%とマイナス幅が縮小し、政府等による復興支援策などから観光客数の回復が進んだ可能性がある。一方、山陽新幹線が同▲2%と伸び率がマイナスに転じ、北陸新幹線が同＋10%と伸び率が縮小した。

◆【旅客機】26 年 9 月の国内線輸送量（含むグループ会社）では、ANA が前年比▲2.7%、JAL が同▲0.7%といずれも前月からマイナス幅が縮小した。国際線輸送量（同）では、ANA が同＋1.5%と前月から伸び率が拡大した一方、JAL が同▲7.3%とマイナス幅が拡大した。

図表 6：新幹線・旅客機の利用状況

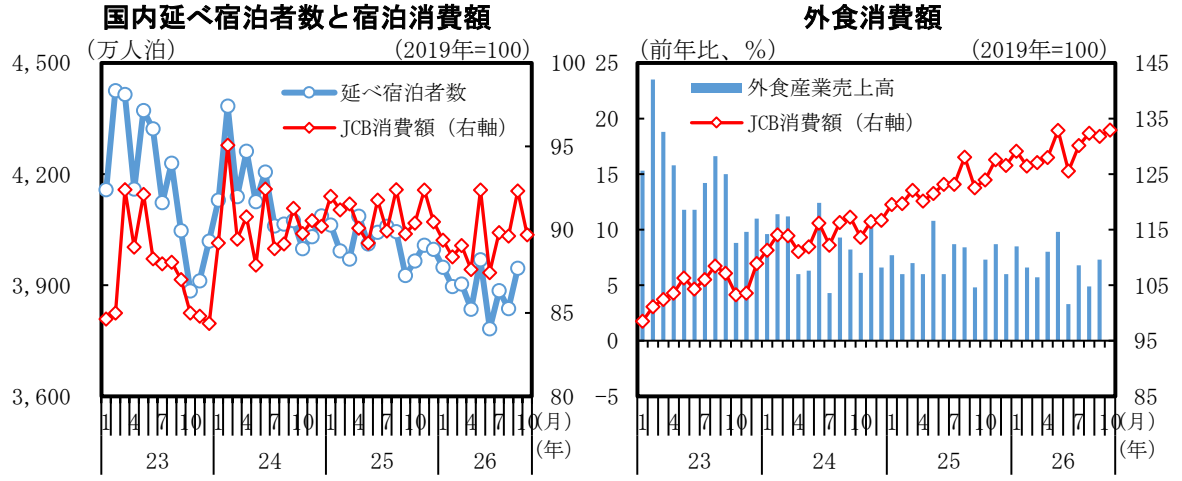


（注 1）26 年 10 月の東海道は 27 日、山陽・北陸は 14 日、九州は 20 日まで。JAL・ANA のデータはグループ会社を含む。
（注 2）北陸は上越妙高～糸魚川間の輸送量。
（出所）JR 東海、JR 西日本、JR 九州、JAL、ANA 資料より大和総研作成

◆【宿泊】　26 年 9 月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース、外国人を除く、大和総研による季節調整値）は前月比＋2.9%と、2 カ月ぶりに増加した。
26 年 10 月の JCB 消費額（宿泊）は前月比▲2.8%と、2 カ月ぶりに減少した。

◆【外食】　26 年 9 月の外食産業の売上高は前年比＋7.3%と前月から伸び率が拡大した。21 年 12 月以降前年比プラスが続いており、堅調に推移している。
26 年 10 月の JCB 消費額（外食）は前月比＋0.9%と、2 カ月ぶりに増加した。

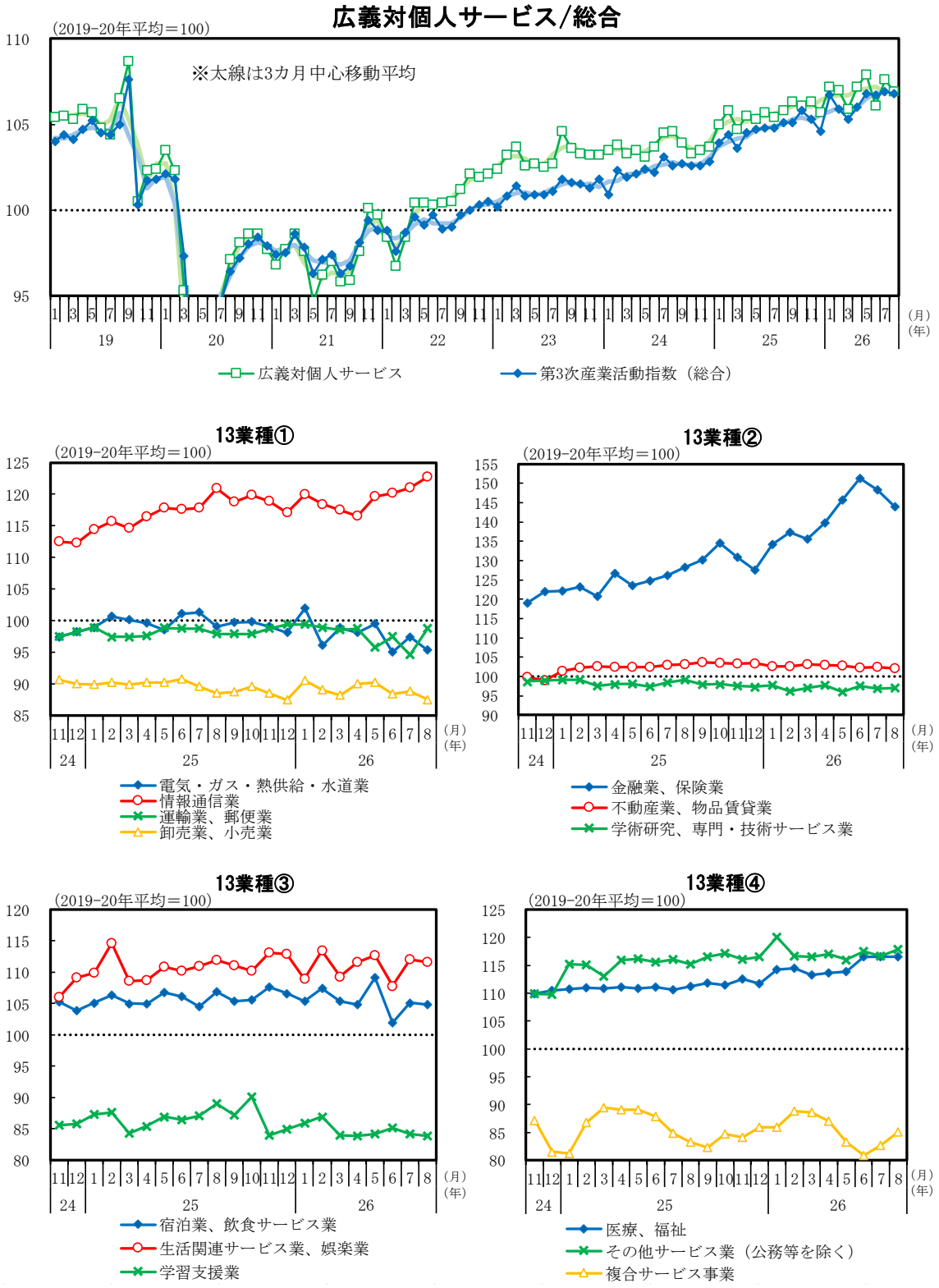
図表 7：国内延べ宿泊者数と宿泊消費額（左）、外食消費額（右）



（注 1）左図の国内延べ宿泊者数は、観光庁統計の宿泊日数ベースで外国人を除いたデータを用いている。大和総研による季節調整値。
（注 2）JCB 消費額は大和総研による季節調整値で、月前半のデータをもとに試算。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。
（出所）観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

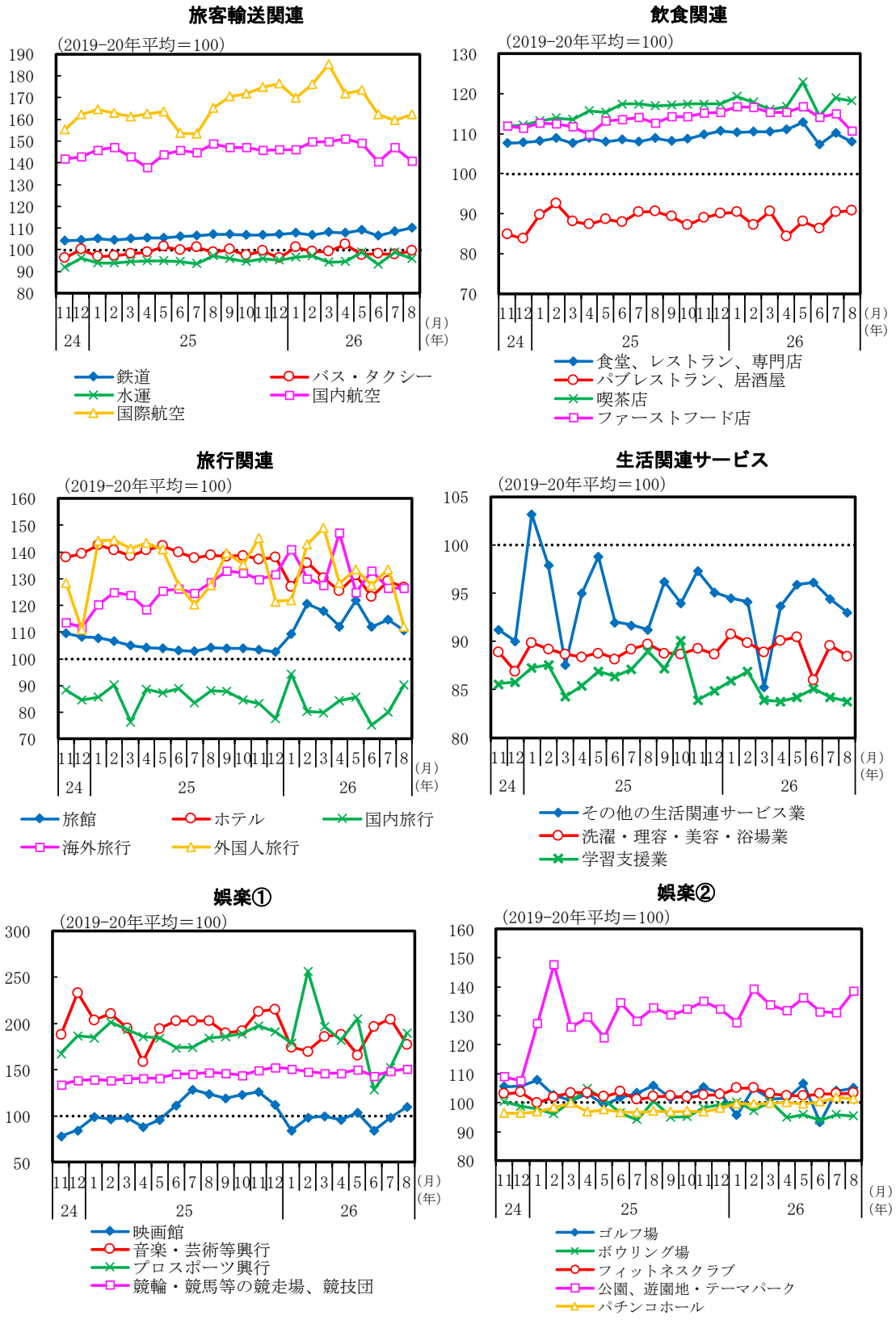
＜参考：第 3 次産業活動指数＞

図表 8：第 3 次産業活動指数



（注 1）季節調整値。
（注 2）13 業種は、第 3 次産業活動指数の対象となっている日本標準産業分類の大分類 13 項目。
（出所）経済産業省より大和総研作成

図表 9：運輸業・生活関連サービス業などにおける第 3 次産業活動指数の推移



（注 1）季節調整値。
（注 2）生活関連サービスの「その他生活関連サービス業」は、冠婚葬祭業や写真業など。
（出所）経済産業省より大和総研作成